

幼 兒 教 育

第 二 十 三 卷 第 五 號



日 本 幼 稚 園 協 會

目次

表紙繪(リヒター)

卷頭

幼稚園教育の普及策如何……………藤井利譽

平凡の眞理……………下田次郎

子供の間食に就いて……………樫田十次郎

幼稚園の細目……………馬場定一譯

英國保育學校規定竝に訓令―「社會と教化」より―

製作に於ける自由材料と廢物の使用……………メリー、ウキルコックソン

幼稚園要目

日本幼稚園協會第二十八回總會

時 日 六月二日(土曜日)午後一時半
會 場 東京女子高等師範學校講堂
順 序

會長挨拶

茨木清次 郎君

會務報告

講 演

社會と自分

東京帝國大學助教授

大 島 正 徳君

茶 菓

懇 話

幼稚園に於ける蓄音機と人形芝居 — 説明と實演(説明者、倉橋惣三君)

閉 會

○多數諸君の御來會を歓迎します

大正十二年五月

日本幼稚園協會

◆ 書 刊 新 店 書 社 商 益 共 ◆

水谷式夫先生著 早川桂太郎先生裝幀
幼 兒 才 へ 第壹編
 送料 六拾錢

雀の御宿、兎と龜

水谷式夫先生著 早川桂太郎先生裝幀
幼 兒 才 へ 第貳編
 送料 六拾錢

七つの小山羊、兵隊遊び

瀧田卯夫先生著 早川桂太郎先生裝幀
少 女 歌 劇

父 を 尋 ね て 一
 定價 金五拾錢
 送料 六拾錢

室崎清太郎先生曲 印牧するを先生振
 松原 至大先生歌 穴戸 左行先生畫
遊 戲 付 少 女 小 曲

春 の お 船 一
 定價 金六拾錢
 送料 六拾錢

井上武士先生編
三 部 合 唱 曲 集
 定價 金六拾錢
 送料 八拾錢

水 谷 先 生 著

對 話 唱 歌
 第拾四編 花あらしひ
 第拾五編 夢物語やきこり
 第拾六編 蛙の王子
 定價 金參拾錢
 送料 貳拾錢

純然たることどもさんのおベラです
 幼稚園尋一二年のお書きさんにも
 易にできるかはいい本書は只今熱
 狂の歡迎を受けつゝありませ第
 一編の名作なるは既に認められて
 居ります第二編は世界の名著たる
 グリムのお伽噺に題をとりし極
 くやさしい可愛らしいほんごに名
 前通りの幼児オベラです

先年御伽歌劇因果應報貝拾ひ黒小
 姫を著し有名の著者が今春來實演
 を重ね漸く上梓の運びとなりし本
 書は既に出版前より多數の御注文
 あり切に御實演を乞ふ

曲は童謡作曲家として有名なる室
 崎清太郎先生歌は童謡作歌松原至
 大先生振付は斯界の重鎮印牧する
 を先生にお願ひ致しました方拍子
 揃た春の御船を御子供さん方に御
 實演

前編二部合唱曲集の續刊でありま
 す學校の教材に音樂會のプログラ
 ムに家庭の唱謠資料として御推奨
 致します

對話唱歌の新刊が澤山出揃ました
 内容はくどくどしく説明申せませ
 ん本書の價値は既に既印付の
 御推獎を受けつゝある極印付のも
 のです

改良せる格好良き服装を一定することは兒童取扱
の上に至便なりと信じます

地質、格好耐久力等斯界の専門家に就き研究し流
行に後れず奢侈に流れず活動に便利に専ら幼稚園
兒を目標として製作した改良服を提供致します

諸先生何卒御安心のもとに幼兒の爲各家庭へ推奨
御紹介を御願致します



男兒夏帽子 一個 金七拾五錢

女兒夏帽子 一個 金壹圓拾錢



男兒夏服 一着 金壹圓八拾錢

女兒夏服 一着 金 參 圓

東京市神田區今川小路

株式會社 フレーベル館

電話九段一三〇七番

振替東京一九六四〇番

幼 兒 教 育

第 二 十 四 卷 • 第 五 號

第 一 一 九

子ども達といつしよに繪を描いて居る。

「先生……」

A先生は、夢中になつて林檎の色を塗つて居る。

「先生……」

返事がない。

「グス〜……」

「グス〜……」

「どうなすつたの……」

A先生は、始めて氣がついて、繪から目を離して子ども達に尋ねた。

「でも先生、さつきから、いくど先生々々といつても、ちつとも御返事がないのです

もの。御自分の繪ばかり描いていらして……」

「あら、そうでしたか。御免なさいね。でも、まあ一寸此の林檎を見て下さい。こゝ

のところは、どうしても、うまく色が出ないのですよ。皆さんのば……」

子ども達は、眞面目な顔になつて、もう一度、自分達の繪を見た。

○ B先生の顔色は見る／＼蒼白味を帯びて來た。目には涙が一ぱいになつて居る。

春子が、またいつものづるを出して居るのである。

B先生は、春子の此の卑しい性癖に就て、何より憂いて居るのである。どうかか

てなほしてやりたいと始終苦心して居るのである。この次こそは、うんと叱つても見

なければならぬとも、いつでも思つて居るのである。けれども、其の場になると、

目の前に、そのいつものづる、性癖を見せつけられると、小言も、矯正法も、どこへ

か行つて仕舞つて、たゞ、身が立ちすくむ様になるのである。

B先生は、指さきを震はせながら、急に春子の手を握つた。そして、無言のまゝ裏

庭へつれて行つた。

そこには、大きな古い樹があつた。B先生は春子を押しつける様にして、自分も其

の樹の根に座つた。春子は、驚いて目を見はつて居る。

その春子の肩を抱きしめて、B先生は、頭を垂れて黙齋に入つた。(倉橋生)

幼稚園教育の普及策如何

東京女高師教授 藤井利譽

幼稚園教育が、もう一層普及せられなければならないと云ふ事は明確な理論であつて又實際の方面から其必要も認められてゐるのであるが、現在我國の狀態を見ると其の普及の進歩はあまりに遅々たるものである。

私人の經營による私立幼稚園といふものも若しくは、これに類する施設は漸次多くなるようであるが、公共の幼稚園はその數の増加率が少ないように思はれる、それは、幼稚園教育がまだ國家的又社會的にその效果をみごめられて居ないといふ事に歸するものとせられる。今日、教育の施設は初等學校中等學校高等學校等にその機關多くかつ又完備しつつある、最近、義務教育の國庫負擔も解決せられ、學級の増加も各科の研究も諸府縣を通じて非常な勢力である。これに反して幼稚園の施設と園兒の増加は、今詳細な調査の結果を知る術もないが、そんなに増加しては居ない様である。幼稚園教育の進歩發達と

いふ事は理論の方からしても又事實の方面からも大いにその必要を認めながら斯様な狀態に置かれてあるといふ事は大いなる矛盾である、國家としても公共團體としても、もつと深刻に考へて此の解決の方法を取るべきであらふと思ふ。先に幼稚園協會が東京を中心として、幼稚園教育の普及とその實質の改善に關して宣傳したがその反響は可成強く非常に有效であつたと聞く、然し其の後幼稚園關係者及びこれに同情をよする識者は絶えずこの方面に活動してやまないであらふか如何か私はそれを知らない、ただかういふ事は一度や二度宣傳した丈でやむべきものではあるまいと思ふ、もつと深い處まで喰ひ込んだ大運動が行はれなければならない、理想を完結し理論を實際に現實せしめんが爲には最も大膽に最も前進的にかかも一時的でなく運動を續けなければならぬと思ふ。而して幼稚園教育發展を圖らんが爲には國家や公共團體も充分經濟的に力を添へて幼稚

園の經營完備を計るようになすべきである。幼稚園教育者又その關係者が、國家には金がないその上に内外共に多端な現在に於て國家が幼稚園事業を助くるに至らないのは當然である。早くもあきらめを付けて、かように實際からも理論からも必然の結果であつて明白なそして緊急なこの要求をせずには止むといふ事は、あまりにはがゆい様に感ぜられる。勿論國家の經綸は廣く、なすべき事業は複雑ではあらうが、學齡前の兒童を教育するといふ事は、一時的の事ではない、その百年の大計の上から考へて、その基礎的な重大さから考へて少しも他の諸教育に異なる處はない、他の教育と同等の重要さと必要さとのある以上、これが經營に國家が費用を補けるといふ事はあまり當然の事ではあるまいか。故に幼稚園教育者自らが黙して手をひかへてゐるといふ事は間違てゐる、自ら進んでその要求の果されんが爲に目的の達せられんが爲に大いに力を致すべきであると思ふ。我國の現状はかようであるが廣く海外を見れば、各國共に學齡前の教育即ち、幼兒教育といふものには、國家はこれを初等教育の出發點として大に力を注ぎ、幼學年の研究、幼學級の改善を益々盛に

しつゝあつて、その教育の爲には相當に費用を支出してゐるのである、勿論、私は幼兒教育を義務教育の中に入れ國民の義務としようと考ふるのでは無いが、幼稚園教育なるものを國家的に考へてその要求が當然の必要と認る時には、これが爲に國家が力を盡すのは亦當然の事であると思ふ。國家自らが、各地方に模範的な幼稚園を造るとか又は公共團體をしてその設立をなさしめ或は保育者の養成機關を完備し、(それは現在の如き不完全なものでなく少くとも小學校教員養成と同程度丈にはしなければならぬと思ふ)なほ制度の上からして幼稚園教育をしてよる處を知らしめその赴く處を指示するものとして、法令の上にもその目的なり手段なりを明瞭にする必要があると思ふ。

一、二年前に全國幼稚園教育者の大會に於て幼稚園教育に關する法令の發布を決議したが以來今日まで殆ど之が實現はされさうにもないが、幼稚園教育者の多くは一度建議すれば事足れりとしてゐるのであらうか、幼稚園教育の國家的存在の意義を明かにする爲には法令の發布は大に重要な問題であるが其事の實現に就いて現在、どれ丈の努力がなされつゝ

あるのであらうか、等閑に附する如き事のないのは當然であるがなほいまだしき感じがするのである。

一體に集團的な會議などで決議せられた事が當座限りにはせられて建議の實現や目的到達にまで至る事が少ない様に思ふ、既に大體に於ては形なり内容なりの出來てゐるものには云ふべきではないが、その形に於て内容に於て又社會的地位に於て微々たるとして不完全なる状態にあるこの幼稚園教育に於ては、その存在の理由の廣く認めらるゝ爲には他に比して非常なる努力を盡さねばならぬのである。

以上述べた様な理由から私は幼稚園の普及を一刻もゆるがせにすべからざるものと思ふのである。幼稚園教育の普及に對する熱烈なる運動の實行と、その結果として各方面から必要の緊急を認められ各地方にあまねくその設立を見るに至るといふ事は私には今は議論は過ぎて切實なる實際的要求である。

もはや理論の時代ではない、宣傳のみの時機でもない之が實行、實現の時である。その實行の爲には、幼兒教育者自らが奮起し絶えざる努力と精勵を致すより外はないと思ふ。自分の幼稚園が完全だといふ事に安んじて廣く國家的社會的の見地から思ふ

事なくば幼稚園教育はいつまでも此のまゝの状態であらふ。此處に大に幼兒教育者自ら勇猛奮勵してその普及の爲めその要求の實現の爲めに盡されんことを切望してやまないのである。(文責在記者)

我國に於ける幼稚園

こゝに掲げた保育學校は英國に於ける幼稚園完全運動の一と見られる。然らば我國に於ける幼稚園の現況は如何であるか。甚だしくその内容に於ても形式に於ても劣つてゐることを思はしめる。幼稚園は傳染病の巢窟であると言ひ、幼稚園を経て來た生徒は、小學校入校後訓練上困ると云はれるが如きは、いかに其衛生的注意に於て不備であり、精神的訓練に於て不完全であるかを語るものである。今我國に於ける幼稚園の状況に見るに、全國の幼稚園數は、六九五、園兒の數五萬八千七百九十四人であつて保姆の數は、二千六十七人である(大正十一年四月現在)園兒の數保姆一人宛二十七人である而して保姆無資格者が其五分の一に及んでゐる。園兒の數を多くする事はこの種教育の普及のために保姆の數を増加し、有資格者を増すことはこの事業の徹底のために必要であるが、全國に於ける保姆養成機關の完成をばかることは、これ等にも増して緊急なる肝要事であらうと思ふ。

平凡な眞理

東京女高師教授 下 田 次 郎

子のない時に教育の本を讀むと、たゞ理屈として、「さうだ、それに違ひあるまい」と思ふ位の事であるが、いよ／＼子を持って實際に教育してみる事になると初めて本に書いてある事が「なるほど、さうだ」と適切に感ずる事が少なくなる。

例へば教育は小さい時に良い習慣をつけて置かないといけないと本にもあるが、全く其の通りで丁度木の枝ぶりでも善く作らふと思へば未だ枝が若くしな／＼してゐる時に、はりがねか何かで巻き附けて形を作っておかないといけない、もう枝が硬くなつてからやつたのでは、はりがねをのけると元にもどつたりする。丁度その様なもので子供に良い習慣を養はふと思へば小さい時にやらなければいけない、道徳にしても、つまりは善い習慣を養ふにある。子供に教訓をするとか或は健全な服従を養ふとかいふのも小さい時にしなければならぬ。どうも中學校の三四年頃になると、もう親の自由にもならぬので、

なか／＼子供に教訓をしても、むかふにも考があるから服従しない事がある、それで十五六歳にもなつて「どうも教育をやりそこなつた、これから一つうまくやらう」と思つても、も早や手遅れでまづはいけないものと思ふ。世の中にはずるぶん不良少年不良少女があつて新聞などにも出て居り家庭の親も困てゐるのが少なくない様であるが、之はつまり幼い時の教育を誤たか、教育に注意しなかつたかであつて、實をいふと之から仕直すといふのは手をくれば、もう十四五歳になつて云たのでは幼い時のように必ずしもすなほに受取るものではない。それで教育といふものは手遅れにならない様の中によくやつて置かなければいけないものだといふ事をつく／＼感じるものである、つまり中學校高等女學校の三四年位迄の中に基本的性質を作つて置く事が必要で、あとは其の部分的の小繕ひか、つぎたし位なものである。それから家庭が非常によくしまつて居

るような家から案外不良性の少年少女を出す事がある、之は家庭があまり嚴格であること子供が苦しがつて家庭の窮屈な處を外に出たのばさうとするものだから上のつむりとは反對の道樂息子になつたり金を掴み出して遊んだりする様な者が出来る事がある。

人間は、室のねずみを追ひ廻すように何處までも追究するものではない、多少ばかりした隠れ處がないといけない。親が子供を躰けるにも、このねづみ取り主義ではいけない、さうでないこと子供が苦しがつて却て親を噛む様な事になる。さうかと云てあまり親が愛におぼれて子に甘いことやはりノラクラの子女が出来るから緩嚴その宜しきを得るといふ事が大切である。それも幼い時の事であつて、前にも云た様に十四五歳になつて、是迄のやり方がまちがつとつたと氣が附いたのでは、も早や手遅れ同様であるから、小さい時に善い性質、習慣を養て置かねばならぬ、尤も手遅れだと云てまるで駄目だといふのではないが案外効果が少ないものである、根氣を持ってやつて居れば又善くする事も出事か知らんがそれはなかくむづかしい事である。

つまり教育は幼い時が最も大切で又最も有効であ

るといふ事は平凡ではあるが實際子供を扱て見て、教育の書物が教へてゐる事は全くその通りであるといふ事を實際に感ずるからその事を此處に又繰り返していふのである。(文責在記者)

みい子の日記から

お向ひのお店の人達は毎日「櫻やカーチンションや、たくさんきれいなお花をさかしてゐる。」

今朝お家の庭に、い、香ひの薔薇が咲いた。「これは誰が咲かしたの」とおばちゃんに聞いたたら「神様よ」といはれた。

やつぱしピンセット持て、前かけかけてお向ひの姉さん達のようにして咲かせたのかしら見てゐればよかつた。

子供の間食に就いて

醫學士 櫻田十次郎

間食といふのだから、普通の食事と食事との間に食べる食物を意味する。成人は普通三度としてあるが其標準から割出して其の間に食ふものをいふ。間食といふと何だか無駄食ひをする悪い習慣を養ふ様に誤解してゐる人があるが、成人と子供とはよほどおもむきが異てゐる、成人は食べ物を消化してそれが身體の運動の原動力ともなれば生活の原動力ともなつて行く。つまり収入と支出とが伴て行けばよいのであるが子供はその收支相つぐなふ外に成長といふ事が伴てゐるので成人から見れば身體の大きさの割には、餘計の分量を與へなければならぬのである。他の方面から考へると成人よりも子供の方が運動が盛で成人は、ちつとして運動が少ないけれども、子供は絶えず動いて居て、なか／＼ちつとしてなんか居るものではない。それであるからその運動の原動力が要る。あだかも成人の筋肉労働者が澤山の食事を取るのに匹敵する。も一つ成人と異なる事は子

供の身體の表面は成人の表面積に比較すると非常に大きい、従て熱の發散水分の蒸發などが成人から比べると非常に多いので其點から云てもその源となる處の食物飲料を多く與へる必要がある。この實例は、夏になると子供が飲料を成人よりも餘計に欲するのを皆さんも承知して居られるであらふ。以上述べ來た様に成長の時機にある子供は食物を體重の割から云ふと澤山與へなければならぬ。それならば三度の食事の時に大量を食へさせたらそれで事が足りると考へるかも知れぬが人間の胃といふものは赤ん坊の時とは殆ど胃袋の形をしてゐない、日本酒の爛どくりの様な形をしてゐて袋といふよりかむしろ筒と云た方がいゝ様なものである、それであるから乳飲み子は少し飲みすぎると苦もなく飲んだものを吐くし又身體を横にしたりますとぢきにあふれ出て來る傾がある。成長するに従て胃がだん／＼袋の形になつて來て入口が左にあつて出口即ち腸に續いた方が右の

方になつて来て左から右に通る處の胃袋といふ様に名の通り袋の形になつて来る。こんな風であるから子供の時の胃袋は、食物が大量必要なにもかゝらず容積が少ない、それであるから生命を維持して行く丈の食料と身體の成長に必要な食物と兩方の分量にはあまり小さすぎるので三度の食事の外に之を補ふ食物を與へなければならぬのである。成人と、満一歳位までの子供の體重から比較すると約三倍の食物を取らなければならぬと云はれてゐる。

子供の味覺といふものは單純なものである、甘いものが一番に理解出来る味である、丁度色の方で云へば赤を子供が好む様な風なものである。それであるから子供の喜ぶ處のものは主として砂糖の多い食物であるが之等のものは多く菓子として與へられるがそのものが口の中に残て酸敗して齒を痛め又胃の中でもそれが酸敗して胃をいため又腸をいためるといふ事がよくあるので間食を一般の人が非常に恐れる傾がある。實際、菓子の中でも、あづきから造たもの、ことに小豆の皮を取らない餡類によつては子供がどの位胃腸を害せられるかわからない、よほど氣をつけなければならぬ。甘いものゝ次に子供の喜

ぶのはすつぱいといふものである。すつぱいで甘いものと云へば果物である、實際子供は實物を喜んで食べる。果物も新鮮なもの、熟したものを食べさせれば、味、香などから子供に喜ばれて、消化を助け食慾を増すし又消化を助ける處の發酵素も含まれてゐるし又近頃大いに云はれてゐるヴァイタミンも可なりあるので、子供に間食として與へて、理屈としては良いのであるが、しかし古い果物、未熟のもの又は量が多すぎるとお腹を悪くする事がよくある、小さい子供の赤痢や疫痢にかゝる原因としてはよく果物があげられてゐる事がある。小兒科の竹内薫兵醫學士が「愛兒の育て方と病氣の手當」といふ本の中に間食の表を載せてあるが次の様である。

午前十時

午後三時

三年— ウェファアース、かるやき、あめ湯

ツウイバック
メルリンスフド
ピスケット、ブディン
チースピスケット

四年— かすていら、水飴
ぶつきり飴、サブ
レーバイ、コ、ア

魚た果物、菓子パン
金平糖、カスタード
ジアンケット(砂糖漬)

もなか、葛餅
五年—ミルクキャラメル
衛生ボール

甘酒、莓、羊羹
ぎゅーひ、翁飴
らくがん

粟饅頭、
六年—みかん、鹽せんべい
あられ類、かきもち
紅茶ココア、珈琲、
チョコレート、餅菓子
サイダー、シトロン

與へざるか、もし與へるとすれば前年の
通りにてよし。
アイスクリーム

以上述べた様に名は間食であるが、それは大人の食事時間に對して云ふので、子供自身から見ればそれが定時食である。間食の種類は略々前表によつて、之れに子供の強弱、胃腸の具合、氣候、嗜好等によつて加減をしなければならぬ、又量の方も其れ等を考へて増減せねばならぬ。只愛に耽れて欲するものを加減なく與へたり、時間をかまわず與へる事は氣をつけねばならぬ。乳呑兒は初め二時間目毎に乳を與へるがそれは先きに述べた様に胃袋が體の割合に小さいからである。子供が大きくなるに従つて食物を與へる回数を少くしてよいのであるが子供の間食時間としては午前十時、午後三時の二回を普通とし

て居る、夜殊に夜遅く土産物を食べさせたりするのは勿論悪い、子供が泣いたから、云ふ事をきかぬからと云ふて食物を與へるのは論外である。

○キャラメルや駄菓子

近頃は「キャラメル」と云ふ菓子が流行して如何なる子供も口にしないう子供はない位であるが上等の品なら差支ないが商人の奸策として次第に値段を安くする爲に原料の粗悪な物を用ゐる殆ど子供の口に入れるに堪へない品を賣てゐるのを見うけますから充分注意しなければなりません。これは砂糖、牛乳、バター、チョコレートの四材料から出来るものであるが同じ牛乳でもバターでも腐たものを用ひてあるに爲子供に大害を及すのである。こんなのは嗅いでみた丈でも悪臭を放つからすぐ解ります。果物でも「バナナ」は下痢を起し易いから満二歳以下には控へた方がよい。

煎餅の中へ南京豆のは入たのは普通の煎餅と同様に思てはいけないこれも四歳以上になつて初めて與へるがよろしい。

(「幼兒の育て方と病氣の手あて」より)

幼稚園の細目

馬場 定一 譯

幼稚園の細目に關する事は今日迄に可成繰返された問題であつて、其の間に各種の細目が作られもし又改められもした。「母の遊嬉に據つたもの、幼児直接の興味を基としたもの、共同生活の中に於て子供が其の動機を見出し得る様な種類の細目、又は自然界より靈感を獲る事の出来る様な細目等が其の主なるものであつて、其の形式は或る經驗に富んだ保姆が之を編成して之を一般に實施せしめるといふ共通の細目の主張せられた事もあり、又之を否定して各細目は之を實施する所の保姆の創意に由りて作製せられねばならぬ事を主張するものもあつた。

細目作製の初期に於ては、恐らく今日に於ても或る程度迄は、其の編成は多少論理的にして且つ形式的になり易い事は眞理である。そして主として智的方面から發達したものであつて、子供等が親しまねばならぬと信せられる様な題目を提供し、之を順序立て、配列したもので、従つて外部よりあてがはれ

た從屬的事柄を而もあまり多く聚め過ぎる傾があつた。而して保姆殊に若い保姆は其の題材が子供等に作用したかどうかは考へないで、只其の廣い列に互つて排列せられた題目の總てを子供に授けねばならぬものだとこの誤信の下に働いて居たのである。畢竟保姆は、自分が該博な知識を持つて居なければならぬ理由は、之を子供等に分與する爲では無くして、子供の要求に間違無く應じ得る様之を照す所の手段に過ぎないのだと云ふ事を知らなかつたのである。

細目の進化するには題材の根本變化に由るものと教育過程を支配する主義の認識に由るものと二つの場合があると思ふが、後者の場合に於ける進化は、前者の場合に於けるものに比すれば一層大なるものがあると思ふ。而して吾々は教育に於ては、相互相離るべからざる關係を有する所の心理學的局面と社會學的局面とのある事を知るものであつて、從て教

育手段とは未熟にして未だ發達して居ない個人(心理學的要素)と成人の熟したる經驗に於て體現せる或る特定の社會的目的、意味及價值(社會學的要素)との間の相互關係の一端であるを定義せらるゝものである。

此の事に由りて自然吾々は、未だ發達して居ない子供と、社會全體の成熟したる生活及其の相互補助の關係との二つの要素の研究に導かれるのである。

其の結果小さい子供の天性や其の經驗の特徴及人生に對する子供の態度の或るものを知る事が出來た、即ち子供は未だ理性の力を所有して居ないので主として愛情や同情等の感情的行爲に由りて導かるゝ所の感動的の動物である事、彼の活動せる世界は自分の經驗によりて限られたる狭き而して個人的の世界である事及彼の經驗は吾々には何等關係のない離れ離れの物の様ではあるが、子供にとりては統一せられたる者である事を認むる事が出來たのである。そこで吾々は、子供は唯感情に由りて導かれて居るのみで未だ判斷力を持つて居ないが、彼を取り巻く人生の研究には鋭き興味を以て滿されて居るものであつて、而も彼等を壓服する所の大衆の世界―其

の世界は子供にも働き子供も又之に反應する所の―につき出されて居るものである事を知るのである。而して其の相互作用は子供の生活の初期に其の端緒を有し且生存中絶えず其の作用を増すものである。

却て保姆が幼児を受取つて第一に考に浮ぶべき事は「幼児をして都合よく相互作用を行はせんが爲には幼児を取巻く人生の多くの局面中より如何なる手選ばねばならぬか」である。所が社會全體としての成熟したる人生は―それには子供がどうにかして適應して行かねばならぬものがあるが、時に「種族の同化して行かねばならぬものであるが、時に「種族の靈的遺傳」と呼ばるゝものに由りて尠からず形付けられ又制限せられて居るものであるから、右の問題は「此の種族遺傳から子供自身に最善のものを得しめんが爲に及最後には其の世界の進展擴大に對しては子供自身も貢獻し得んが爲に、子供の生活せる世界に適應せしむる様之を誘導して行くには如何なる手段を執るべきであるか」と言ひ換へる事が出來る。而して幼稚園は此の必要な適應に於て僅かに其の小さき端緒を與へ得るに過ぎないものだと考へる必要は無いことゝ確信する。

所謂種族の「靈的遺傳」又は「靈的所有」と稱するものは何を意味するものであるか。之疑も無く文明の發展進歩に貢獻し且つ世々其の永遠の價値を其自身に證據立てゝ來た所の色々な手段を意味するものである。この事より吾々は直ちに高尚なる宗教的理想に由りて動かされたる貴き人々を作りそして正義と眞理とを其の主義として立てる國家並國民の發達に貢獻したる彼の偉大なる道德及宗教の力を思ひ起させられるのである。夫から又個人的及世界的經驗の深き眞理を吾々に示したる世界の大なる文學と、吾人の存在並に吾々が生長せる宇宙の事實及經過を知らしむる所の科學の事をも考へ、又各時代の個人を教育し且つ之を高尚にする事に貢獻したる繪畫、彫刻、音樂及建築界の名工達人達の創作をも思ひ起すのである。最後に又吾々が若し一々其の事蹟を記録するならば其の偉大なる方に驚かざるべき實業界の大なる貢獻をも思ひ起さざるを得ないのである。

吾々が「教育的價値」と呼ばんと欲する所の事を演繹するのは是等の手段からであつて、倫理學、宗教、文學、科學、美術及實業即ち之である。學校の教科は是等より順次に引き出さるのであつて自然次の

様な問題が起る。即ち「四歳乃至五歳の子供の教育に於ては是等の教育的價値を如何に使用し何を選択すべきか」。知的見界より生ずる形式的及論理的細目を製作するの誤に陥る事を避けんが爲に再び我教育問題に於ける第一の要素即ち幼兒に考を轉じなければならぬ。而して幼兒の小さき經驗と、大なる教育的價値との間に如何なる連絡關係をつける事が出来るかと思ふなければならぬ。デューイー博士は曰く「心理學的考察は看過せらるゝか乃至は除外されるかも知れぬが、而も全く忘れられてしまふ事は出来ぬ。偶々忘れられて居てもいつかは考の内に戻つて來るものである。吾々は何處かで何等か原動力に訴へて心と其の對象物との間に連絡を作らなければならぬものであつて、此の連絡の絆なしに成功するなど云ふ事は問題にならぬ事であるが、唯其の連絡は精神に關係して居る物質其自身から生じたものであるか、又は外部の原因から致されたものであるかは問題である。併しながら若しも教科の題材が子供の擴がつて行く意識の内に相當な位置を持つ様なものであり、又其の題材が子供自身の過去の行爲や思考や悶えから生じて更に一層大なる到達及感受性

に適用せらるゝものであるならば「興味」を喚起する爲に如何なる工夫や企てをも、頼みとするの要は無
い。心理學的考察を以てする時は、興味とは題材が
全意識生活の中におかれ、子供がそれに由つて人生
の價值に對する分前を得るものたる事を要するもの
で、外界から提供せられた物即ち子供には反對の動
機に發達し子供には縁の遠い立場や態度に於て胚胎
せられ生み出されたるものである時は興味は起らぬ
ものである。

教育的價值としての倫理學—子供の生活が倫理學
の教育的價值に接近する事は困難な事ではない。倫
理學は人の行爲や性格に關するものであるから、家
庭や幼稚園に於ける子供の日々の生活は即ち原始的
の習慣や種々なる行爲の具體的の例である。幼稚園
は勝れたる倫理的制度であつて、其の社會生活は正
しき行爲の發達や禮儀的習慣の養成に役に立つもの
である。保姆たるものはかゝる方面を看過する様で
は決して成功しない。幼稚園に於ける社會生活に
は、或は子供相互の親交や物品の受授等が實際に行
はれ、之等がやがて品性の善き特色に發達し、其の
行爲は悪い習慣と傾向とを自然に撲滅するものであ

る。故に保姆は子供の能力に應じて與へられたる奉
仕や自己否定の行爲と、幼兒生活の美しき發表に對
する眞の訓練となるべき毎日の禮儀、規律、時間、
清潔等の習慣とを培ひ以て子供が團體と接觸する際
に受ける所の自己訓練を補つて行くべきであつて、
しかもそれが如何にても偶然的發達に見える程自然
的な、非感情的な方法でなければならぬ。

教育的價值としての宗教—子供は其の穢れざる狀
態に於て敬神の本能を持つて居る。人生生活の他の
場合に於ても繰返す如く、人類の初期に於ける根本
的傾向、即ち種族の宗教的生活を發達せしめたる衝
動を其の本能に於て繰返すのである。吾々は此敬神
本能を貫して教育的價值たる宗教に子供を導かねば
ならぬ。幼稚園に於ては特に宗教的訓練を細目の中
には入れないけれども、後日宗教的經驗となつて表
はれる所の衝動を培つて、將來の宗教的訓練の種子
を播く事は出来る。總ての宗教は感情に其の端緒を
持つて居るのであつて、知が宗教的經驗を支配して
居る様な時でも、眞の宗教的精神を支配して居る所
の信仰は多く感情の感化を受けて居るものである。
子供は由來感情に動かされるものであるから特に心

を刺戟する様な感化は受け易いものである。子供は又敬神の念に對して可能性を持つて居るものであつて、其の敬神の念は適當に培はるれば將來の宗教的體驗に役立つものである。

理想的條件を考へる事は吾々の熱心なる希望ではあるが、吾々は今幼稚園の實際問題に關して居る以上事實上の立場より考へなければならぬ。今日米國の多くの家庭に於ては高き神聖なる神に對する敬虔の態度竝に宗教的儀式の遵守に於て著しく缺けて居る所がある。一般に宗教的儀式の爲に別に取離されたるものと認められて居る日曜日如きも、子供の心には、遠足をする日であり、ゴルフをする日であり、自働車に乗る日であり、乃至は又新聞に大きな美しく色彩られた附録の現はれる日だと思つて居る。此の結果幼稚園に來て居る子供の一割乃至其上は、信仰上の普通の行爲の爲に其の子供の兩親なり他の親達と一緒に禮拜の場所に行く事に心を動かされもしなければ又威かされもしない。又其の小さい心は寢床の側に脆いて靜かに天の父に祈る母の様子にも刺戟せられないし、家族禮拜の爲に一緒に集る意味に就いて怪しむ事も無かつた。是等の子供等

は日曜學校に送る事も出来るのであるが、家庭に於ては宗教的教養に對する此の代用さへも屢々用ひられて居ない。故に吾々の取扱つて居る子供等の中には敬神本能の全く働かない子供が随分居る譯である。茲に於て子供の一般の傾向や本能に關する吾々の知識が其の用をなすのである。過去の歴史に鑑み、又吾々の經驗に徴して見るも、敬神本能は各個人の心の中に集るものなる事は明かである。之は全智全能の神に由りて平等に與へられたる賜であつて、此の故に吾々は吾々の見る事の出来ない事を信仰するのである。吾々は恰も小さい種子や球根を取扱ふが如くに小さい子供を取扱はねばならぬと信するのである。正しき條件を間違無く附與して、毎日毎日怠る事無く培つて見よ、必ず其の小さき芽生を見る事が出来る。吾々はフレーベルの深き眞理を含める次の教訓を自分のものとしなければならぬ。「子供の心の中に播かれたる眞理の種子は何時かは屹度發芽し結實するものである。たとひ其の發芽の過程は徐々であるにしても若し其の種子に生命さへあれば必ず結實すべき時が來るものである」。

故に宗教の教育的價値に接近する事は、子供の心

の中に敬神の念が發達する筈に養育して行く事に由つてゐる。此の養育は特殊の手段に由るよりも寧ろ一般的の感化に由る方法が效果のあるものである。大自然は小さい子供に目に見える象徴を以て話し、從て「大なる目に見えぬもの」(神)に對する朦朧ゴウロウした感じ即ち敬神の端緒となるべき畏敬及不審を起させる具體的の要素を提供するものである。田舎や小さい町にある幼稚園の保母は子供を自然界に連れ出す特權を與へられて居るから、自然界に於ける「生長」の不審、鳥の生活に關しては巢を造る事、雛を養ふ事、候鳥の渡等、又は當初は匍つて居る毛蟲が後變じて美しい蝶となる等の事は自然のままの状態に於て之を觀察させる事が出来るのである。大都會に於ける保母はせめて偶に園外に出るとしても公園に連れて行く位に過ぎないのであるから、子供を養へるには此の價值ある手段を子供から取り去らぬ様に努めて幼稚園の中に自然界の多くの場合を持ち來す様にしなければならぬ。球根を植えて之を育てる事、花園を興へて之に種子を播き其の生長を眺める事等は子供等が自然の大なる世界との直接の接觸の缺乏を多量に補ふに足るものである。

毛蟲を幼稚園に持つて來て昆蟲飼育箱の中に入れて子供等自身自ら飼育して遂に其の繭を作るのを見る事は子供等の爲に價值ある新しき經驗を造るものである。自然界に於ける要素の種々なる表現、例へば雨、風、雪、太陽等に對する子供等の興味は、不審議と敬虔との精神を養ふべきも一つの入口である。是等の種々なる經驗が子供等に不審議の念を喚起する時、心ある保母は之を誘導して「全世界を愛しむ」大なる靈を子供の心に思ひ起させる機會を逸しないのである。

又歌や單純な祈を以て敬虔の念を醒めしめるべき表示を子供に與へる事も出来る。最も不幸な境遇に居た子供でも此方法を以て教養すれば幸福なる結果を致す事が出来る。私は或る組の子供等に行つた興味ある經驗を持つて居る。復活祭の頃の事であつた。子供等お互で手入した球根植物や其の他の春の花があつたので子供等にとつては復活祭の氣分は殊に楽しいものであつた。保母の机の上には一つの繭が置いてあつたが、子供等は絶えずこの繭に注意し、其の繭に指示せられて其の中に眠つて居る生命のある事を思ひ起すのであつた。子供等は全く無生の如き

繭の中に生命の或る標シムシを待ち兼ねて見守るのであつた。其の週は終り最後に其の組を分れさせやうとした瞬間に一人の子供は大嬉の調子で叫んだ「出て来る、出て来る！、蝶々が出て来る！、子供等は爪立して箱の周圍に集つた。而して新しき生命が出て来て其の美しき翅を擴げるのを敬虔の沈黙を以て觀察して居た。遂に全く繭から出て、其の翅を乾し乍ら自分のふり捨てた家の上に静かに立つセクロビアンモッス（一種の蛾）の其の美しさが出現された時、子供等の驚きと喜びの嘆息とで其の室はどよめいた事だつた。暫らくして、稍々臆病な飛び方で其の翅を試み、それから又暫らくして其の室の木の植えてある窓の方へ飛んで行つて。翌朝子供等が來た時には蛾は未だ其の植物の中に居た。子供等は暫らくの間其の美しい動物を觀察して喜んで居たが、度々窓の方へ飛ぶので、一人の子供は、多分外へ出たがつて居るのだらうとの暗示を得、遂に一般の同意に由りて窓は開けられた。蛾は美しき外部の世界へ飛び去つたのであつた。

友と歩ける人

母と歩ける人

子供と歩ける人

神と歩ける人

幸福の人。

英國保育學校規定竝に訓令 (承前)

△…：精神的竝に社會的…：▽

十一、以上の如くではあるが、併し、保育學校の全目的が身體健康の増進にのみあると思ふにはあつらない。精神の成長についても留意しなくてはならない。學校は此方面に關して身體的方面に於けると同様の注意をはらはなくてはならない。よく形成されたる習慣と熱心とを以つて小學校の課業を始めさせるための準備は多大の負擔である。形式のどこのへる讀方、書方、算術等は保育學校に於てなすべきものではない。これ等の學科に對する準備は話す事と言葉の訓練とにある。兒童は、その音聲を雜音なしに自然に發する方法を教へ、明瞭に正しく發音する事を教へらるべきである。彼等は又、質問するやうになり、命せられたところによつて行動する様になり、自分の事について語るやうになり、一緒になつて歌ふことのできる様にならなければならない。音樂唱歌は、音聲の訓練を助け、お話を兒童の前ですることは、彼等の發音

を訓練し、言葉の意味を理解する助けとなる。熟練せる教師ははにかむ兒童を話すやうに誘ふ方法を知つてゐるであらう。幼稚園の備へ付けおくべき玩具、繪本、又は花園、家畜の如きは兒童にお話の材料を提供する。言葉の訓練の一つの目的は、兒童に、言葉と共に觀念を考へることである。換言すれば話すべきものを考へることである。

ウエイルスに於ては、保育學校に於て用ふる言語は兒童の家庭のそれであることが望ましい。

十二、運動及感覺經驗の發達促進。まづ最初には兒童の調和的發達に缺くべからざる兒童の運動經驗竝に感覺經驗に指導を與へるべきである。通例考へられる様に、手工は五歳以上の兒童にとつては、最も適當なものであるが、その原理は廣く保育學校に採用されるべきものである。兒童は活動によつて學ぶ—實に眞の筋肉教養は腦の教育である—又兒童が早くよりあらはす自發運動は腦を刺戟するものとして甚だ大切である、手工のある種類、身體

運動——例へば歩行ホッピング、スキップ、マーチ、駢足、手の運動——は適當であつて、兒童の運動力を誘導する、手工は次の如き條項について考慮するの要がある。

(イ)繰返しを適度にする、(ロ)その形式に於ても性質に於ても相當の變化あること(ハ)作業は一時限もしくは二時限中に完成するやうにする。

就中手工及その他の兒童の作業は一個の目的を有すべきである。兒童の興味は、意味あるものにより、何事かなすと云ふことにある。そして又、その結果のあらはれると云ふことにある。

彼等は物に手をふれることを好み、つゝいたり、造つたり、使つたりすることに興味をもち又塔を作つたり壊したりすること物を蒐めてこれを所有すること又は他の子供と交つてこれを支配することを好むものである、これ等の幼少な兒童の自然的性質は、保育學校に於て開拓され促進され指導されるべきものである。

十三、爾餘の主要な目的は所謂感覺修練である。かかる修練の目的は單に短時間中に異なる音、重さ、

形、色等を區別し、而も練習しなければ直ちに失はれる様な能力を養ふためではない。むしろ兒童をして色や形や大きさの微細な區別よりも、目について云へば廣くこれを注意する様兒童を教へ、耳について云へば、注意してよく聞き、噪音に代ふるに樂音を味ふよう發達せしめ、觸覺について云へば、形や大きさ、組織等を指によつて合點し得しむるやうにし、その手と器具と指とを注意深くもち得る様になし得るのである。兒童は又、物の香臭や、重さを區別することを學ぶがよろしい。これ等の活動の課程に於ては無限に兒童の觀念と言葉とを豊富にする。教育のこの側面の兒童と密接に關係してゐるのは歩行に於ける平衡と、容易と威嚴とである。而して律動の感覺は、音樂及舞蹈によつて養成せられるであらう、歩行及靜坐に於ける惡習慣又は、千鳥足に歩み、又は窮窟な姿勢は嚴しく矯正しなくてはならぬ。

十四、社會的訓練。上述の訓練の多くは、個々の兒童に於て、又は、小人數の中に於て施される併しながら保育學校は、又社會的訓練の目的をもつてゐる。即兒童は、これによつて適當に食事するこ

と、即一般に食卓に於ける良習慣を養ふことをなすべきである。彼等は又、食卓を据え、これを清潔にする、又は簡単な洗濯をなすことや、又その室を清潔にし遊び道具を其のおくべきところにおくと云ふやうな訓練をなすべきである。これ等が正しく訓練されたときは、保育學校は、その全幅の努力を靴のぬぎはき、衣服の着脱、清潔及これ等について相互扶助をなす等の訓練をなすべきである。

これ等の學校に於ては、あまりに美しくしすぎはしないかと云ふことを恐るゝには足らない。

さて幼少の兒童と雖も競争に加はり、玩具を共に弄ぶことは時に年長者に混じてなすことができず。共同の精神を喚起すること、及相互補助の精神を喚起することの重要なことは、今更に云ふまでもない。これ等の精神は所有の精神又は所有の誇を教養すること、衝突するものではない、もし各兒童が共同の玩具棚をもつ事を喜び、その所有品を貸し合ひ、なすべき仕事を助ける様になれば、學校に於ける兒童の興味は増進されるであらう、保育學校に於ても、話し方、競技、音楽等に於

て、共同作業の機會を見出すであらうが、これについて彼等自ら共同の作業を選ぶやうになる。兒童が玩具の獨りあそびを飽くまであそんだ時に歌や、競技の共同作業程よろこばれるものはない。勿論これ等が時間表以外にあつて、共同作業が明かに要求せられるときに課するには、殆んど言ふの必要もない。食事及休憩時間は、時限の始め及終りになすべきことの必要がある。これ等以上のことは豫め定めおくの要がない。

十五、保育學校の訓練として明かに認められてゐるべきものは、形式的のものを含んでゐてはならない。年齢にのみよつて、學級分けをすることは避くべきである。何となれば、既に云へるが如く兒童訓練の重なる要素は普通の遊戯の精神、相互補助の精神を教養するのにあるのである。勿論、二三歳の兒童をすべての點に於て四歳又は五歳の兒童のなす事に一致せしめることはできないが、しかし興味をもつて注意することはできる。又年長の兒童が熱心にきゝ入るお話を常にきくこともできないがその間自分の好むところに従つて散歩し、遊ぶことはできる。年長兒童は、又それ自身

競技、慾求をもつてゐるが、幼少なその弟妹と一緒に競技することもできる。又、彼等は幼少な兒童の遊ぶのに興味をもち、そしてこれを助けよるこばせることに興味をもつものである。

△……教育行政規定……△

十六、校地、校舎及設備。校地は兒童の家庭に近きことは大切なことである。大都市に於ては兒童の健康増進のために人口稠密なる區域から離れた、開闢なる土地を得ることは、最も考慮しなくてはならないことである。併しながらこの場合に於ても學校は、兒童の家庭から距離を考慮するの要がある。遠距離の學校に兒童を運ぶことは、非常に困難なことである。これ等の兒童が悉く、その兄や姉に伴はれて來ることはできない。母親と學校との連絡に於ても缺陷を生じ、學校を怠る様になり、病氣の場合などは非常に困難することがある。かゝるが故に、學務當局は一般に兒童の家庭より適當なる歩行通學距離の外にある保育學校に入學を許可すべきではない。危険なる往來を横ざることとは避けしめる必要がある。

十七、校舎の選擇について考慮すべき主なる條項は

次の如くである。

(イ)花園をなせる戸外の場所は學校がこれに代用すべき公園に隣接せざる以上なかるべからざるものである。でき得べくんば佛蘭西風の窓をヴエランダ、花園又は運動場に直接出づる様設くべきである。時に戸外の場所を得ることのできない場合には、屋上運動場を設けてもよい。

(ロ)教室は終日の作業をなし得る様なすべきであつて、各兒童十二乃至十五平方呎以上の空間を要するものとする。彩光及換氣は特別の注意が必要である。教室は東南向を可とし外氣的裝置の助けをかるべきである。

(ハ)食事室及食事準備室(食事室の特に存する必要はないが)休憩及睡眠に必要な室をそなへることは、日々兒童の養護に便宜を與へる。

(ニ)帽子、外套の預り所、手洗場、水浴室、衛生室等を充分に備ふるとは特に必要である。設備は幼少な兒童にも使用し得らるゝ様單純にして經濟的のものたるを要する。温湯の絶えざる供給のために、一浴場五十名の兒童に充分なるやうにしなくてはならぬ。又同様五十名に對し

て一つの衛生室をそなへ大なる學校に於ては、五歳乃至六歳の兒童に對しては別の設備をなすことの方がよい。

これ等に必要なる設備は概要次の如くである。手洗場。洗面臺を固定するときには兒童に充分とどく様に低くしなくてはならない。ベンチの上洗面器をおいてもこれの流しができて居れば充分間に合ふであらう。兒童各自の手拭、齒ブラシ、及櫛をそなふることは望まじきことである。

浴場。小さい簡単な地面から上つたスリッパ浴槽が最も理想的である。

衛生室。衛生室は必ず屋内にあつて、應急の處置に應ずるものを具へておく要がある。又屏風をそなへて兒童が相互に混合つて處置しにくいことを避けるの要もある。

教室。教室はぬれた靴や衣服を乾すことができる様にしなくてはならない。即ち、各兒童は各自の掛釘をもつてゐる必要がある。洗濯の出来る外衣及スリッパを具へることは殊に天候の不良の時必要である。

十八、一般に現在の狀態では、保育學校の目的のために獨自由に工夫された建築を得ることは殆んど困難なことであらう。併しながらこの事が全く閑却されてはならない。保育學校は、こゝ數年間試験時期にあり、尙一層の經驗をつむまでには、特別なる施設のために、費用を費すことはやむを得ぬことである。特に大なる建築物は、この種の教育に於ては望まじきことでもなく、必要なことでもない。何となればいかなる場合に於ても、保育學校兒童は、限られたる範圍から來てゐるものであるからである。まづ學務委員會は、この目的のために他の邸宅を轉用することもあるのであらう。勿論、地方の事情によつては、この邸宅を轉用する時、考へるであらうけれども、でき得べきだけ小さく家庭的な近寄りよいものであるべきである。時には他の校舎をも適當なものであれば保育學校の校舎としてもよい。他の家でもこれにあつてもよい要するに新鮮な空氣と日光とはこの場合最も必要なものである。又臨機によつて多少の變更を加ふべきこと勿論である。上述の一般的考慮とは別個に、學務委員會は、現在に於てこれ以上

建築についての要求をなさない。ただ採用すべき方法の價值について考慮し、採用された要求に伴ふ費用を推定するやうにすべきである。

一九、兒童室の設備は、單純で軽い椅子とテーブルとを具へ、洗ふことのできる敷物、疊むことのできるベット及教具、玩具を含むべきである。

二十、保育學校の大きさ、保育學校が小さく、家庭的であるべしと云ふことは明かなことである故にその規模に於ては、他の都市の小學校とは比較にならない保育學校の理想的の人数は、まづ四十人である。しかし臨機の要求に應ずるため四十人以上のために準備するもよい。故に學務委員會は、保育學校が八十人乃至百人に對する設備をなすを妨ぐることはできない。たゞいかなる場合にも百人を越ゆることはできない。

二十一、入學及退學の年齢、法令第一條の乙號により保育學校は二歳以下で入學せしむることはできない。併し此年齢に達すや直ちに入學せしむる事は望まじきことである。良習慣の形成しやすく又多くの兒童の陥り易き缺陷は、幼年の時期程治療しやすいのである。もし兒童が日々託兒所に通ふ

ときは、保育學校への入學は三歳を適當とする學務委員會は兒童が五歳に達する時に學校を退く様にすべきである。五歳に於て義務教育が開始しない場合には、保育學校終了後の年限は、その進歩を妨げ更に保育學校の年齢が制限されてゐる場合には幼兒の利益の方が、五歳より六歳の間の子供の利益より重んぜられる、特殊の場合を除いては兒童を五歳以上まで學校に残すことが望ましいこととなる。第一條乙號の規定はかゝる場合に學務委員會に次の様なことを要求するものとする。(一) 地方學務當局は設備に於て協力し、(二) 校舍及教員等を五歳以上の兒童に適するやうすること、(三) 充分なる運動場を作ること。

二十二、日課。日常の始業時間及終業時間は普通の小學校より少く早くはじめて、其兄弟が學校へ同道するの便を與ふべきである。課業は、個人的、並に團體的なるべく、これによつて兒童は自己の趣味と興味とを發展せしむべきであるが又、その同輩と協力し、他を困まらせるような行爲を統制することを學ぶの要がある。兒童は充分注意して、自恃の精神と共に共同の精神を涵養し、人にも物

にも、共に愛し得るやうにすべきである。そして自由と幸福と相愛の雰圍氣を養ふべきである。學校はすべての關係に於て兒童に愉快なる經驗を與ふるやうにし、單純にして清潔、かつ健康なる環境に於て社交性と自然性を生長せしめるやうにすべきである。成功の本質的要件は、其家庭的なること及節操の保持と兒童の母の信用である。この要件は兒童の健康と密接な關係をもつてゐるのである。

二十三、保育學校に於て得らるべき健康上の最も重要な利益は、(一)榮養、よき食物、新鮮なる空氣、清潔、健康に適する身體習慣(二)運動、豐富なる自由遊戲形式的ならざる運動、精密に規定された運動を避くること、(三)休息、平臥したる休息、短時間にして變化ある課業、適當した腰掛、器具によつて緊張と不休息を妨ぐること。

學校の目的は、三つを教へることにはない。睡眠と食物と遊戲とによつて幼き兒童を健康と良習慣にたえ得る人格とを得しむるにある。

兒童は、少なくとも一週一回は沐浴すべく、髪は規則的に櫛るべきである。頭部の洗滌、齒の磨き

方、便所の使用は充分に監督をなすべきである。

兒童は清潔の習慣をつけべきであるが、でき得る範圍に於て相互に扶けるやうにするのである。

二十四、職員。保育學校の職員は次の三種とす。

(1)學務監督

(2)看護婦、助手

(3)見習員

學務監督。保育學校の成否は一にスーパーバインテンドントにかゝる。スーパーバインテンドントは、二歳より五歳までの兒童の身體的福祉のために責任を負ひ得る人で、兒童衛生について完全なる知識を有する人たるを要する。而して單に保母の仕事をなし得るに止らず、保育學校の保健に關する組織となしその達觀と想像とを以て兒童の訓練を指導し得る人たるを要する。要言すれば、保育學校のスーパーバインテンドントは高き能力を有し、個人的にも職業的にも經驗の豐富なる人たることを要する。地方學務當局もしくは經營者がかくの如き人を得ることは、一殊に最初にあつて困難なることである。しかし選擇の範圍は、事業の進むにつれて擴大してゆくものである。保育學校に

於けるかゝる人々は、教師又は適當な人によつて之を求め特殊な訓練は師範學校又は他の適當な場所に於てすることが出来る。若しその適當なりや否やの不明なる場合には、これを假採用とすることが出来る。

教育令第九條甲號の保育學校のスーパーインテントたるを證明するには、學務委員會は一定の試験を通過せる人々にのみよる現在を以て満足してはならないその任務に堪え得る様な人々を教育して完全ならしめることを考へなくてはならない。

二十五、助手、助手は兒童殊に幼兒の身體的福祉にあづかるべき看護婦免許狀を有する人たるを要する。一方又、一部分は幼兒の訓練、教授に適當にしてかつ經驗を有するものたることを要する。學務委員會は、戦後戦時中晝間看護所若しくは兒童保護所の病院に看護婦として一時仕へた多くの婦人や、又は他の仕事にその力を試みて進んでこの種保育の事業に従はんとする婦人を見出すであらう。學務委員會がこれ等の人々のために特別な訓練のコースを開くことは望まじきことであ

る。適當なる看護婦が常に保育學校に接してゐなくてはならぬ。彼女等は終日あるの必要はない。ただ毎日こゝに來て輕微の疾病等を醫するの務をもつのである。さすれば、一人の看護婦を以て五校乃至六校を兼務することが出来る。若しスーパーインテントが必要に應ずるだけ兒童の疾病についての充分な知識を有する場合には看護婦はこれを省くことができる。

二十六、見習員、十八歳以下の女子が保育學校に於て永久的に此種の仕事に奉せんため、或は、兒童の看護者としての仕事を見習はんことを欲するものがあることがあらう。見習員は安價なる労働者と見らるべきではない、其人員は限定せられなくてはならぬ。これ等の人々の訓練のためには適當なる方法を講じ、もし十六歳まで完全なる年數の間訓練を受けない人である場合には、必要な補習教育の爲に充分の訓練をしなくてはならぬ。

二十七、今より一層經驗を得る迄は、學務委員會は保育學校の職員の定員を規定してはいけない、併し四〇——五〇人を收容する保育學校に於ては、一人のスーパーインテントと一人の經驗ある

助手及一人の見習員を要するであらう。しかしこゝに示した人員は、保育學校の設備が收容兒童に必要な注意と監督をなすに要する最低限の人員である。より以上大きな學校に於ては、助手の數を増さなくてはならないことは明かである。

二十八、最後に保育學校と他の學校との間に其教師を交渉することを容易ならしめることは重要である。保育學校の教師を全く分離した階級にして置くのは、その敎職の興味を無視したことである。學務委員會は、地方學務當局及經營者がこの事を心に於いて、保育學校職員について若し有せざるならば小學校其の他の幼兒の學校の敎員免狀を附與せんとすることを以て獎勵することもできると云ふことを考へてゐてもらひたい。

二十九、保育學校と他の施設との關係、從來は便宜のため保育學校又は學級は獨立の施設として考へられて來た。併し保育學校又は學級を他の組織からひきはなして認めることの要求が當然であらう。たとへば保育學校は小學校の幼稚部と同じ建築物の中に設けることを欲することがあるかも知れない。すでに述べた様な考は、各事情により多

少の加減を加へてかゝる要求に應ずるべきである。たとへば託兒所との聯合は、そのスパーインテンデントとしての人を特別の注意を以て選ぶことが必要となる。學務委員會は二歳以上の兒童二十九名以上あるにあらざれば、保育學校を託兒所に併設することに同意すべきではない。

三十、保育學校又は保育學級を公立小學校の建物の中に設けんとする提議に對しては、深き考慮を必要とする。學務委員會でまづ熟議すべきものである。運動場、又は講堂の如きは、共同に使用することもできる。しかし保育學校に室の構造を適せしむることは、まづ困難である。教室の交互使用は、全く隔離せる室でない限りは、保育學校も小學校も何れもその作業の妨害をなすこととなる。晝間は保育學校定例の仕事の一つとして考へらるべきものであつて、兒童のためには、敎育令(給食規定)の下にある他の學校兒童と別個になさるべきものである。保育學校を小學校長の下におかんとすることを考ふるに於て學務委員會は保育學校の大きさ、及小學校幼稚部の大きさに關すると同様、敎師の免許について考慮すべきである。一般

に云へば小學校兒童四百人以上を有する學校で保育學校兒童の四十人以上を有する場合には、かゝる組合せは避くべきものである。

三十一、補助金はこの法規に従つて經營せられる保育學校には下附せられるであらう。保育學校の經營を補助し、又はこれを經營しつゝある地方の學務當局に對しての補助金交附規定は別にこれを定める。本規定第十三條は有志の經營に成る保育學校に對して同率の補助金を與ふる旨を規定してゐる。第一回補助金は、一九一九年三月三十一日を以て終る年度の支出に應じて算出し、一九一九年四月一日を以てはじまる年度の中に支拂ふものとする。

一九一八年十月三十日

エルエイセルビーゼツグ

○學制發布教育會館の建設

五十年記念

學制發布五十年に際し帝國教育會長澤柳博士は、大戰後の社會狀態が如何なる主義主張も輿論の力によらなければ貫徹せられざる有様に至り教育界の振興の爲には全國教育者の一致團結の最も急務なる事を、而して其の精神的團結の象徴として、更に實行機關として、教育會館建設の最も緊要なる問題である事を、我全國二十萬の教育者に向て提案せられた。その言に曰く「百萬圓の經費を物質的に豊かな生活をして居ない教育者の手によつて醸出するのは容易ならざる一大事である然し全國教育者の總數は二十萬の多き上つて居る。決して之を不可能とする事は出ない。會館の成否は教育者の物質的環境の如何にあらず、たゞ其の一致團結心の強弱によるものと余は認める此事業は實に我教育者に與へられた好箇の試金石である、教育者の一致團結は如何なる事業でも出来ない事はないと云ふ證據を世に示すものである」と。

教育會館工費及募集方法

位置 宮内省恩賜神田區一橋通町面積八百坪

募集金額 百萬圓

寄附 一口金五圓(數回に納附してよい。又共
同として一口としてもよい。)

募集期間 大正十二年四月より十四年三月迄

製作に於ける自由材料と廢物使用

メリー、ウ井ルコツクソン

幼稚園と幼學年での製作とは、子供の自發的な、有目的活動である。謂はば、材料とは、發表の手段であつて、製作は思考を伴ふ自由な實驗でなければならぬ。又材料の質が子供に新しい思ひ付きを呼び起したり又教室相當な題材を提出させたりする事が屢々ある。であるから子供の本能的な興味を惹く様に上手に材料を選ぶと云ふ事が大切である。

本能は吾人の、精神生活を生ぜしむる原料だと、ジュームスは云つてゐる。材料は子供の多くの個性——即ち構成的、研究的收集的社交性好奇心模倣的遊戯所有感又手工的興味——を充すのに有效である。

子供が之等原材料で自由に實驗をする時には、教師はただ背景となつて居るべきである。といふのは自由な實驗は獨創と熟慮とを發展せしめて自己の力量に對しての自信を増すからである。背景にあつてもなほ教師は子供の實驗を前進的に導き得る。

若し教師が一群の子供の前に立て、象の切りぬきをして見せれば、それは子供自身の精神的な努力を

無視した事になる。其時子供は單に紙片を見又紙を剪るが眞當の象としては見ない、子供の想像と獨創はさえぎられてしまふ。子供に手本を示すといふ事は、一種の犯罪とも云ふべきである。かような教師は一個の精神を殺してまでも目前の良結果を望まふとする者である、そして子供の有目的な製作といふ事には盲目的な信用さを持ちながら其の結果に對しては非常に臆病である。彼女は粗雑なしかし貴い、結果を恐れて、爲に自由な實驗の喜を子供から奪ふ。

子供は自分一人で切りその結果を實物と比較し、(さう出来る時には)缺點を發見して次の試みへどうつる。かうして彼の作つた二つの象を子供は比較してみる、そして其處に判斷力が増進される理である。然し當面の問題として「何處から自由實驗の材料を得るか?」といふ事が直ぐに起る。イリノイスとウキスコシンの五十人の幼稚園と幼學年教師に「製作に就いて自由實驗の機會を子供に與ふるか否か」を問ふた處二〇の答は、それは、自由實驗といふ事は、

製作に於ける心理學上の唯一の方法であるので、少くも一日一回はその機會を與へるといふ確心を述べられた。しかし材料の不足が經濟的にひき起す要求によりこの一回の他の製作は教師が子供の前で手本を切て示すといふ事であつた。二十四人の教師は手本によつての製作と共に幾分かの自由實驗を課するといふ事であつた。六人の教師は自由實驗の爲に要する多くの材料を得られない(經濟上)が爲に手本を示す方法のみを用ふといふ事をあからさまに承諾された。

學校は、已に必要な積木、粘土、砂、運動具、玩具を購た後には、製作の爲に紙を買ふべき餘金を持つてゐない。又他の材料の要求といふ事は念頭にさへ置かれてなかつた。

かういふ理由が、材料の缺乏といふ事の爲に不利な立場にある教師が、子供から、貴い自由實驗を奪つてもよいといふ意味になるであらうか。

これが、幼稚園と小學校の製作の日程から自由實驗を省略するのが正しいといふ意味になるだらうか。否、實に簡明に、これまで看過されてあつた多くの自由材料を有効に用ひ又集めなければならぬと

いふ事である。

教師や子供のごく僅かな努力で、自由材料や廢物が集められ得る結果は實におどろくべきほどである。次のは、多くの子供の本能を充し得る此種の材料の表である。

I、自由な廢物の紙類。|| 皺にしたり、ちぎつたり、切り細ざいたり、褶んだり、構成たりする爲に||

1、新聞紙

2、紙袋—家から持て來るいらなくなつたハローウキンのお面や何か。

3、包み紙—家庭からでも、學校からでも。

4、薄い紙—お母さんの買物の—ヘヤチットのや、靴の箱についてゐるもの。

5、壁紙—家の壁紙のくづ。

6、色紙—買ったものでないもの。

7、古い封筒。

8、上級で一度使用した紙—數學や英語の時に片側だけ使つたもの。

9、ナプキン—家や學校での集りの残りもの。

10、古いカレンダー。

11、古い手帳。

12、リボンボルト―雜貨商からもらふ。

13、ちりめん紙―學校の集の後の不用のもの。

14、皺のよつた紙―本を包んだもの。

15、ポスター、廣告のもの。

16、バラビン紙、キャンディーの箱やお辨當の包みから。

17、紙製のナッツ入れ―家や學校の集りの後のもの。

紙の製作は、道具を用ふるので粘土や砂の製作より一歩進んだものである。糊と鋏が必要。紙は、まづ製作以外の他の事に使はれる、或る幼稚園では、まづ紙がナブキンやテーブルクロスに用ひられた。

子供達が朝の食事を、何も無いテーブルで食してゐた時、一幼児が「お母さんのテーブルにはナブキンやテーブルクロスがある」と云た、又他の子が「これは遠足の様だ、遠足の時にはナブキンやテーブルクロスはないもの」と云つた。又他児が「でも紙のナブキンやテーブルクロスなら何時だつて使ふ」と云た。教師は、「ちや遠足に來た事にしやう」と云て一人の子供をよんで、テーブルクロスになるも

のを見出させる、子供は印刷しない大きな新聞紙をみつけた。又他の子は、小さい薄紙をみつけてナブキンにした。自由遊の後に小さい子供の群は幼稚園の人形の家族に小さいテーブルクロスやナブキンを使用して食事をとらせた。

子供の最初の鋏の使ひはじめは、細々に切ることである。子供は要求の満足するまで、存分に剪る事を許される、しかしそれは目的なしにするのではない。人形の布團の中に入れる爲めといふ事で、はじめ、剪りこまざきに目的が出來て來る。後に細長い小切を剪る、その小切は砂場に造た村の街路や歩道の敷き物に使ふ。

きりぬき帖を造るのに、雜誌から繪をきる時、子供は初めて線に添て切るといふ事を學ぶ。繪を、きりぬき帖にはる時には大テーブルの周圍に皆あつたりテーブルを新聞で覆て後に糊を使ふ。子供達は出來上りを比判しながら糊の使ひ方を話しあふ。ペーヂに繪がはられてから其處へ紙を一枚入れる「まるでマザーグースの本の様だ」と一人の子供が叫ぶ。又一人が「マザーグースの表紙には繪がある。私は今度の新しいキリヌキ帖の裏にクレオンの繪をかき

たい」といふ。後に子供達は各々のポスターやきりぬき帖の爲に簡単なものを切る。又建物、家具、車玩具等を作る教師は幼稚園に於ては紙をちぎる事は奨励しない、といふのは小さい子供には無目的であるから。然し幼學年に於てはさうではない。過ぐる夏の事であつた幼學年の一群は黒板に公園を作つた—茶色の枝の上に緑のちぎつた紙をはり付けてそれを木にした。

○幼稚園及幼學年兒童の案出した紙製作の題材。

- 1、繪を剪る事と畫く事
- a、きりぬき帖を作るのに
- b、揭示板へ畫く爲に
- c、一つ／＼の又團體的の目的のポスターの爲に
- 2、お話の圖解
- a、お話の中で自分の好きな部分を簡單に畫き表すこと
- b、畫で表すお話の一連続
- c、畫で表すお話の團體的に作られたもの

各兒が—くぎりづゝのお話を表し、それを寄せあつめてポスター又は小さい本を作る、これにはたとへば「ジャックの建てた家」「おばさんと六

錢」のやうな筋の漸進的のものが適してゐる。遠足とか小集とかいふ學校の活動を畫で表した記録にする爲に

- 4、動物の繪本を作るのに動物をきりぬく爲に
 - 5、或る計畫に必要なものを構成する爲に
- たとへば人形の家といふ計畫の爲に椅子、テーブルやその中に住む人形を要す如き。
- II、ボール紙の自由材料と廢物使用。

剪たり構成たりする要求の爲に

- 1、ボール箱、學校又は家から或は方々の商店からあつめたもの

- 2、厚紙、音樂會の廣告とか店の廣告類
 - 3、カレンダーの後の裏紙
 - 4、切符、小集會に使つたもの
 - 5、バタ皿
 - 6、ミルクつぼの上の蓋—牛乳屋でもらへる—
- 幼稚園及幼學年兒童の案出した、ボール紙製作の題材。

- 1、浮くもの、ポットや動物等
- ボール紙を剪り着色してミルクの中につめる—
- 2、箱で造つた一つ／＼の又團體的の人形の家。

ストロブ、テーブル、椅子等。

3、荷車と車

—ミルクつぼの上蓋を車輪にして作る、砂場に造
た農園や小さい町の爲に。

4、動物

プラスチックをつけて立つように造る。—

農園や曲馬團に使ふ爲に

5、のぞき繪

—靴の箱をきりぬき玩具や繪を中に入れる—

ボール紙製作は、紙製作より一層むづかしいが然
し非常に價値のあるものである。「硬ばる」^{コッパ}といふこ
の材料の性質がその用途を大層廣くするから。又箱
を使ふ構成は、四面がすでに出来上てゐるので大變
助かる處から、幼兒にとつては價値あることであ
る。

Ⅲ、自然物の自由材料と廢物使用。

—子供の集收的、構成的本能を充す爲に—

1、穀物

- a、畑、—じゆつつなぎをする時の爲に—
- b、ごもろこし、

糸につないでクリスマスツリーの飾にする。

2、種、—つなぐ爲と蒔く爲—

a、南瓜

b、メロン

c、豆(赤、綠、そら豆等)一時間湯に浸し又は

一夜水に浸して通す。

d、青豆

e、胡瓜

f、瓢箪

3、翼のある種

a、楓

b、楡

c、楊黃

d、いなごまめ

e、とねりこ

4、くるみ類

—動物や人形を造るのに、又つなぐのに—

v、落花生

b、巴旦杏

c、トチの木の実

d、どんぐり

e、椰子や桃の実

5、 莓類

a、 つる桃

b、 青いグスベリー

6、 莖、—つなぐのに使ふ—

a、 たんぼ

b、 クローバ

7、 葉

a、 鎖に造る

1、 さくら

2、 梨

3、 りんご

b、 飾にするもの

1、 バラフィンを塗た葉

2、 油紙で裏うちした葉

3、 おし葉

4、 シェラクを塗た葉

c、 青寫眞の爲に

d、 葉の本を作り、それにはりつける爲に

—粘着する様にプラスチックを用ひ又は紙でベ

ーデにはりつける—

8、 管うどん、—つなぐ爲—

9、 にんじん、かぶ、わさび

10、 人形芝居の爲に

a、 甘藷、キアベツ

b、 にんじん、かぶ

11、 麥藁—飾にする爲に—

12、 紅胡椒、ハローウキンパータイの不用品

—南瓜の顔の鼻にする。スープの味付にも用

ふ。

13、 卵の殻—人形を作る、—

14、 梅、あんず—人形の顔に—

自然物を用いた製作は、子供の集積性を組織立てるのみならず自然に對する知識を増して子供の生活を豊富に且つ深いものとする。自然物を蒐集するといふ事は無目的な事ではない。遠足は理由なし、目的なしには行はれない、たとへば教室を飾る爲に葉を集める事をする。そして新しい材料が出来れば子供にとつてはそれが新しい題材になる。本能的な子供の好奇心は材料が室内に運ばれて、それについて、あれこれと語らるゝ事を要求する。子供は種々な異た野菜や果物等について知り度いと望む。そして其等に就いて語り合ふ爲に子供は彼等のまわりの自然

に對する感賞の度を増して行く。

○幼稚園及幼學年兒童の提出した自然物材料を使用
しての製作の題材。

1、新しい人形の家族を作ること

a、ごもろこしの穂

b、卵の殻

c、梅

d、あんず

e、クルミ

2、室飾り

a、葉で飾る

b、ハローウキンや感謝祭の時に麥藁で飾る

c、ハローウキンの時、南瓜で作た顔で飾る

d、ごもろこしをつないだ鎖でクリスマススト
リを飾る

e、窓に籠を下げる—人參

f、室内の花箱、—家から持て來て種をまく。—

3、メイクキーンの冠を作るのに

a、たんぼのくさり

4、人形の家のお皿を作る

a、どんぐりのお皿

b、くるみ、巴旦杏、落花生

5、人形芝居

a、野菜で人形の身體を造る

IV、木材の自由材料及廢物の使用

1、木片—大小の—

2、かご

3、煙草の箱

4、莓の箱

5、雜貨品の箱

6、大工がくれる木片のよせあつめや、いらぬ釘

釘や折釘、槌や鋸、くぎぬきの類

7、かんなくづ

8、糸まき

9、干物どめ

木材とする製作は道具を使つるので更に價值がある。はじめ子供は、たい金槌を打つ丈でたくさんであるがまもなく鋸をひく事に興味を持つ。そして自分で仕組んだ題材の爲に、合はせたり釘付けたりする前にまづ望み通りの形に材料を切るといふ事が必要になるから。

○幼稚園及幼學年の兒童の提出した木工の題材。

1、人形の家―大きい木箱又はミカンのかごで

a、家具

b、人形

2、玩具―クリスマス玩具店の爲に

人形の車、動物、荷車、車、マザーグースの玩具

3、窓の箱

4、鳥の家

5、小劇場

6、雜貨店

7、室の鉛筆棚

8、花さし

9、運動靴の棚

10、本棚

V、縫ふ爲めの自由材料と廢物使用

1、家から持て來た布の小ざれ

a、木綿

b、毛織

c、絹

2、お芝居をする時の着物

縫ふ材料を用ひてする製作は、幼稚園及幼學年に

於てはごく限られた範圍のみである、といふのはこれは細い筋肉を使ふ事になるからである。ごく幼い子は縫ふといふ事は少しもしない。少し長じた子でもほんの僅かで、使ふ材料も大きい粗雜なものを用ふ。

○幼稚園及幼學年兒童の提出した縫ふことの題材

1、人形の衣服

2、人形の家の装具

a、カーテン

b、シャツ類

c、しきもの

3、ゲームの材料

a、豆囊

b、麥囊

c、石彈の囊

4、お芝居の衣裳

a、印度風の衣服

扱、終りにのぞんで私は二人の教師が、自由材料と廢物の使用によつて如何に構成の材料缺乏に打ち勝つたかといふ例について語らふと思ふ。

是等の教師は、西南部の不毛な鑛山區域に建てら

れたメキシコ人の學校に働いてゐた。不完全な古い建物の中に集められて數百人のメキシコの子供達は、アメリカの兒童に、不潔なメキシコ人に煩はされずに理想的な現代的校舎を興んが爲に區別されてゐるのであつた。そして社會殊に文部當局の一般的態度は、メキシコの兒童に材料を買ひ興へる事は全く金錢の浪費であつて彼等にはアメリカ兒童の使用しない材料を用ひさせるべきだと云ふのであつた。たとへこの外國兒童は何等興へらるゝもの無しでも少くとも彼等は本國に居る時より幸福であつた。彼等は暖法の行き届いた校舎に居りそして彼等を保護し得る教師の世話を受けて居た。教師はよい黒板と澤山のチョークを持って居たから不平を云ふ理由はなかつた。材料の缺乏に最も苦しんだ幼稚園及幼學年の教師達は不平を云ふ事の無益である事を知て、彼等の力を積極的方面に注いだ。そこで彼等はただ得られる(買はない)自由材料と廢物の材料を蒐集しはじめ、かくして彼等はその集めた材料を利用するに至つたのである。

幼稚園の人形の家

春の事であつた。勤儉なアメリカの主婦達が川添

ひで家を洗つてゐるのが幼稚園の窓からもよく見えた。忙しさうな大工等は富んだ鑛山師の家を建て、居た。教師は子供達をつれて家の基礎工事を見せて行た。翌日の遊び時間には積木の建築が盛であつた。一人の子供が群をはなれて隅の方にある人形の家の處に行き暫くその前に立てゐたが、やがて中から家具を出しはじめたそして大きな乾物箱の中にそれを置いた。教師が何を爲てゐたかと思つたが、女は首を振て人形の家を指して一言「汚い」と云た。その人形の家はいたんでゐた、といふのはこの人形の家はアメリカ人の幼稚園で不用になつてなげ出され、それをメキシコ人の幼稚園にもつて來てから九月から三月までひどく使はれたからである。

で、教師は子供達をよびあつめて、フランシスカが何を爲、何と云たかを話し、そして皆で新しい人形の家を造るといふ事が決定された。教師は、爲ようといふ事で夢中になつてゐる子供達が、一つの乾物箱で仲よく働く事の不可能である事を見て家の室々に就ての興味をよび起す様にした。多くの子供達は一室か二室の粗造なレンガ造りの家に住んで居た。教師は、目前の問題解決の爲めばかりでなく、なほ健

全な考を養ふ爲に、アメリカ人の家庭へ子供達をつれて行て見せた。親切なアメリカの老主婦達は、さつぱりしてゐる牀に足跡をつけたり木製の部分へ指あとをつけたりしても、驚いた様子をしてみつめてゐる小さい茶色の顔を見て少しも悪い感じを持たなかつた。この小遠足についで、子供達は室のある家を設計しはじめた。まづ子供達は自分の造らふとする室を選ぶ、一人は居間を二人は食堂を十二人は臺所を五人は寢室を、そして十人は浴室といふ風に。教師は他の四個の大きな箱を店から手に入れる―少なくとも二尺位の高さの―、かくして子供達は大きな家具を造らふと元氣づく。教師は八年級の少女を四人手助けに借りる、しかし教師は無經驗なこの少女達が幼い子達の家を造る事をしない様に見守る、この四人は自由材料と廢物とを集める事で最もよく教師を助けるのである。

用ひらるゝ材料

1、穀物箱―室を作るのに

これらの室は最後に一緒にされて外側を白く塗る

2、居間の家具

- a、糸箱で造た椅子
- b、テーブル―糸卷の上にボタンの箱を付けて
- c、壁紙―包紙にクレイヨンで線をかいたもの
- d、しきもの―室内裝飾材料の見本
- e、カーテン―古い不用のレースの端切れ
- f、ランプ―ガラス屋から寄贈されたバッテリーで作る
- g、ランプ傘―不用になつた縁のあるナツツ入れ
- h、時計―ミルク殻の上蓋を面にして靴のボタンに糸をつけて、振子にする

3、食堂の家具

- a、テーブル―糸卷の上に菓子箱を膠付けにする。
- b、壁紙―包紙
- c、椅子―糸箱
- d、しきもの―室内裝飾材料の見本
- e、カーテン―レースの端切れ
- f、食器棚―キャンデーの箱で銀紙を鏡にする、バッテリーを青く塗た皿、くるみの殻の皿、ボール紙のお皿

4、臺所

- a、ストープ―黒い箱

b、テーブルキャンディーの箱

c、椅子—糸箱

d、ながし—パティ—で白く塗た

e、臺所什器—キャンディーの包紙、ナツツカツ

フ、名刺箱、厚紙で作つたもの

f、牀敷—リノリウムの見本

5、寢室

a、ベッド—鉛筆箱

シートと毛布は木綿と毛織の端切れ

枕—白い布の中に紙のきりこまざいたものを入れて作たもの、

b、衣服戸棚—銀紙の鏡のついた小さい箱、

e、椅子—糸箱

d、目覺時計—圓い粉の箱

e、壁—茶色の紙

f、しきもの

g、カーテン—レースの端切れ

6、浴室

a、パティ—で白く塗た装具。水桶

b、壁—青いクレイヨンで模様をつけた白い紙

c、しきもの—リノリウムの青い見本

幼學年の曲馬場

この人里はなれた鑛山の區域に一つの幸な出來事があつた。といふのは、エルパンに行く道すがら、曲馬團が此の村に止たといふ事である、場所が自由になつてゐたので教師は其處へ子供達を見せに連れて行た。翌日、はしやいでゐる子供達は動物のことで一つばいであつた。教師は諸方から、動物玩具とその繪を借りて來た。萬屋の番頭まで教師の熱心に動かされて—勿論メキシコのいたづらつ子供達は決して破損さないと事を約して—いくらかの玩具を貸してくれた。

その動物を皆返す日が來ると或る子供達は動物の剪りぬきを造り又年長の子供達は自分達の動物を造らふといふ事を考へる様になつた。子供達が動物を造て爲た時に或る一人の子供は荷車を造らふと云つた。かくて暫時の中に曲馬團は室の一隅の牀の上にひろげられた。

使用材料

1、荷車—キャンディー箱、粉の箱、ミルク壺の蓋
ど、洗濯屋でたゞもらつて來た、カラのボタンと
結びつけて車輪にする。

2、動物―靴箱の蓋で作る

3、馭者―人形の肩を幅廣くして、車の前の切れ目の處へさしこむ。

色を塗るといふ事は最も効果のある事である。

象を鼠色に、キリンを黒づんだブチのある黄と茶に、驢馬を黒と白に、馬を白、黒、茶、又黄褐色に、駱駝を淡い茶色に、動物の車と手綱は黄に、車輪は赤に、馭者は赤と黄のピロッドに、田舎の人には白と赤と黄のまだらのある衣服を着せ、曲馬主にはキラ〜する赤いピロッドの着物に大きな銀の擴聲器を持たせる。

—The Kindergarten and First Grade—など。

新緑をたづねて野ばらの香、小川の唄に聞き入る時がまわりました。

單純な自然の詩、複雑な人生の詩、詩にあふれた子供の世界、わが詩の世界、わが幼児の世界に私共が没頭する時同じ對象の爲に、北米のヒツブルグでは四月十六日から二十日まで萬國幼稚園協會の會合があつたとき々です。その詳報はまだ知れませんが。かうした會合の事あるを耳にして、我が幼稚園も又世界のわが幼稚園である事を思ひます、そのも一歩前に我が日本の幼稚園である事を。

澤柳博士が我國教育者廿萬の一致團結を提唱せられます。北米に萬國教育者の會合が開かれます。時代は協力を要求して居ります。貴い一人は、集て更に異た意味の貴さを生み異た意味での力を生みます。

今更めて居りますが、私は、「お互に歩きませう」と言ひたくなりました。

第四章

藝術

子供が先天的に表現の要求を持てゐるといふ事を證明するには、たゞ彼等に、繪具やクレヨン、紙或は粘土を與へさへすれば充分である。その粗雑な結果が表された時第三者は彼等に「創造的想像」を發展せしむる必要はないと感ずるのであらふ。しかし、なぐりがきや剪る事や塗たり搗いたりする事は、子供自身の實驗による方法と他兒や教師の暗示によつて進歩した技術に變る。表象的な表現は子供の環境の事物にます／＼似て來る。しかし子供の技術を進歩せしめ—自發的表現を失はずに、又獨創と新奇を失はずに、—その作品を實物に似させることは慎重の取扱を要する仕事である。或教育家は「放任せよ」と云ひそして藝術の訓練に於ては子供は自己救済を爲得るといふ事を明言してゐる。此の見解は極端であらふが、技術にあまり重きを置き過ると創造的想

像力の翼を刈り取り明瞭な觀念の表現にあまり重きを置きすぎると表現の慾求を止めると云ふ事は記憶すべきである。子供が活動するには「彼の心中の喜の爲に、彼自身の運命に」時期があるに違ひない。

一般目的

表現の希望を充たす爲に、そして創造的想像を發展させる爲に。

色と配列の感じを發展せしむる爲に。

思考を明かにする爲に。

子供に自然の美を見得る爲に又藝術品の美を見得る爲に、そして藝術と云ふ媒介物を通して新しい見地から彼自身を表現する様に試る爲に。

特殊目的

材料を更によく扱ふ爲に。

事物を一層明確に見る爲にそして考を一層明かに表す爲に。

色彩と配列を一層意識的に用ふる爲に。

主題

1、子供の對自然及人の經驗は表現の爲に—幼稚園

要目の中にある様な——多くの主題を提出する。此の表現は祭禮執行の爲にある美的の形になる。

a、自然、果實、花、果物、日、月、動物、各季節の子供の遊び。

b、工業と作業、家族、それ等と關係ある物、——家具等の如き、——各職業従業者の活動。

2、ハローウケン、クリスマス、ワシントン誕生日、リースター、メイデーの祭禮は、その室内裝飾にリズムカルな配列を提出する。クリスマスカード、リースターカードやヴェランテンのや又、宴會の招待状を飾たり、作たりする事は藝術的の仕事に多くの動機を與へる。此の様な仕事の配列單位の準備として、子供達に模範を與へる時には、模範を選ぶのに教師が明確な藝術標準を持つにあらざれば、又其單位が種々な配列に或る機會を供給するにあらざれば藝術の價値は無い。でなければ子供達は此の仕事を自己表現の手段として用ひる事は出来ない。

3、クレイヨン畫や水彩畫、剪り紙、タイブライターで書いたお話や詩——幼稚園の子供の自作のもの——を集めた本が一年中かゝつて作り出される。は

じめに畫が作られてから言語が畫を説明してもよいし又その反對に言語が先でその後で圖解してもよい。次の詩は幼稚園の子供作例である。

お月様が日本のクリスマスストーリーを見てゐる

農夫の育てた三個のカボチャが並んでる

メリーは薔をたべてフェアリーになつた

此の本は園藝、農事の本、サンタクロースの本、母の仕事或は家事の本といふ様に、日程の摘要として役に立つ。又此の本の内容は言語と書き方の價値ある相互關係に機會を與へる、表紙を飾る事は圖案をやるといふ事の動機となり、本をまとめて作るといふ事は工業的の仕事を提供する。

4、人形の家に家具を配列したり、紙人形に着物を着せる事は製作の章で指示した様に多くの藝術目的を持てゐる。

5、お話や詩は作品によい暗示を與へる、しかし幼稚園の子達は自由に使はない様な物をより想像的な繪に畫くものと豫期してはならない、又あまり多く觀念の關係を要するような仕組みを表すものと期待してはならない。たとへば「三匹の豚」の話は二種の動物の繪を畫くことゝ異な種類材料で

建てた三つの家を建てる事と、攪亂器、林檎園等を要求し、各挿話が物語の頂點に達す處に筋が仕まれてゐる。ある簡單な歌或は詩は圖解するのによい。たとへばハムプティバムティは(づんぐりむつくりした道化)大層畫きやすい、といふのはそれは丁度子供が畫く人の形によく似てゐるからそれと總ての子供の先生達が親しみ深い人の形に似てゐるから。

遠足の如き直接經驗は作品の爲によい材料を供給する。子供達は幾度も衆の中にそびえてゐる教師と一處に長い列を作てゐる自分達の繪を畫く。遠足の目的地はこゝに略す。消防機械であらうと藝術博物館であらふとかまわれない、社會的經驗が最も深い印象を與へるのである、然し要するに之は眞の藝術であり、生々とした經驗の繪畫的表現である。幼稚園要目に於ては、材料を取扱ふ事や考を發表する事についての子供の興味から技倆の部分丈を離して増すといふ必要はない。仕事は常に動機を伴はなければならぬ。「棒さし」のような色で角形を充たす様な事は價值がない。

一般目的に關した方法

表現の望を充す爲に創造的想像を發展させる爲に自由發表の機會—紙、硯、畫具、クレイヨン、粘土とする—が與へらるべきである。子供の最初の發表は觀念によつてであつて、實物によつてではない。それにつきジョンデューは曰く、

「物を畫くにも子供は彼の想像から畫くのであつて物そのものではない、子供が發表する想像を、生かし自由に爲得る様になると其の時又原の形に歸て來る。或意味に於ては此の時代には技倆といふものはない然し技倆に相應した心理的要素がある—即ち運動的表現が明白な心象の刺戟と相並ぶか若しくは之に支配される—之が訓練によつて本來の技倆と呼べるゝ處のものになる。最初の思考は「爲る事」即ち使用である、使用の後に方法が來る、「如何に爲るか」といふ方法が。扱方法はそれ自身の爲に成立するのではない。よりよい自己發表の爲にそしてもつと興味あり充實した「爲る事」の爲にである從て次の二點が生ずる、技倆は自由な想像的發表から生じなければならぬそしてそれは内部から成長してかような想像的發表とならねばならぬ。」と。

色及配列に就いての感じを進展せしむる爲に。

1、色、子供の色を好む事を満足させるには彼自身を發表する色の材料を與へればよい。クレイヨン水彩畫具と色紙、幼稚園では色鉛筆よりクレイヨンを使ふ方がよいと云ふのは彼等は色の感じを充たすと同時に鉛筆よりも幅廣な柔かい線を與へるからである。色の配合は未成であらふとも子供の最初の發表は自由であるべきだ。子供の華麗な色を好む心を或程度に充す迄は、進歩した美的な彩色とか色合かは與へられない。子供は屢々野蠻的な配合をする事があるそれは原始的藝術と同様に無意識的に美しい。かような結果が最初は偶然に起るが教師の選擇と奨勵によつて彼等はもつと意識的に基礎を形造られる。子供が材料道具になれらるに従て教師は調和のよい色合の背景を與へたり或は屢々色の選擇を定限したりしてその結果を誘導すべきである。

2、配列

子供の自由製作に於て多くの無意識的な配列の例をみる。例之ば子供は夜景をそのまゝ畫く代りに紙の上に月や星の連續を作る。此配列に於ける興

味は幼稚園の室の裝飾を工夫する事で又バスケットやお皿、紙人形の着物等を飾る事で—それ等は工夫に大層誘導的な型を與へる—發展させられ又もつと智的にさせられる。

材料の使用は—それは自然に單位を繰り返し或は圖示といふよりも整然とした配列に導く處の—棒さしや、球つなぎ、自然物つなぎ等の如きもので總ての考案の興味を進展せしめる。

考を明かにする爲め。

一般に、發表は觀念を具體化して思考を明かにするものである。然し若し教師が兒童の達する結果を價值あるものと認めないならばそして又仕事の動機を與へる事に失敗するならば結果の性質効果は増進せず悪くなる。教師は幼稚園の製作品の陳列とか他の幼稚園の訪問とか云ふ事の結果思ひついた様な結果をあまりに屢々子供の考案として課する。これらの結果はそれ自身には何の價值もない、ただ之に携た群には缺くべからざる重要な問題の遂行を表してゐるものであるから、其處にのみ多少の價值があるのである。仕事に動機のあるといふ事はその發表を知的に成長させる。

「何「如何」と云ふ問題は子供の實驗にたえず起て來る事であつて、それは教師によつて明かにせしめらるべきである。材料を使用しはじめの時の特徴である本能的な活動は變化して明確な思考作用を營む活動となる。「教師の模倣」―それは幼稚園や小學校に於てあまりに屢々用ひられすぎた―は、教師が教へた結果をたゞ機械的に子供に繰り返へさせるだけで、自分自身の方法を考へさせない。此の自分で自分の方法を考へることがすべての發表の主要價値の一である。

鑑賞の進歩

活動は智識への子供の鍵である。摘む事が出来る故に子供は花を好む。然し子供が花の美しい色を表現する様になると繪を畫くといふ活動は對象に對する新しい態度を子供に與へる、子供自身の計畫なるが故に生ずる所の作品に對する興味は、作品の對象である物に就いての興味を引き起し、斯くして子供の態度を一層智的ならしめ、これが次の努力の基礎となる。經驗を具體化するといふこの事が子供に他の人の繪をより興味深いものとする。これが繪畫鑑賞への一歩である。

特殊目的に關しての方法

構成材料の扱ひ方の熟練

どの材料でも最初の興味は手で扱てみる事である。その結果は第二である。前にも述べた様に、なぐり書きは、しつかりした線や色を平に塗る事へと進歩し、塗たり擦たりする事が進歩して水彩を用ふ様になる。子供が實驗の時期を過ぎそして、技巧が進歩すると、彼等は自分の作品や其他の同種の作品を批判する様になる。或子供は繪に畫いた水を見て「これは髪の毛の塊の様だ」と云た。線がもつと平行に畫かれさうなものと思つたからである。子供が畫く時には無線描法を用ひないで彼等は本能的に線で畫く様である。しかし色の塗抹は技巧を増すから線畫と相關係して無線畫が暗示されて來る。たとへばボートは輪廓を畫くが水は一面に塗抹する。兵隊や水兵はちやんと畫かないで棒の様に畫く事も出来るが扱て軍服を畫くとなると充分な滑らかな畫き方の必要が起る。作畫を集めた本は使用した色彩の各個で裝飾した表紙を附けてもよい。

團體的な製作を教へる場合には子供達は、年齢とか幼稚園に長く居たとかいふ事に依てでなく、彼等

が一定の材料を使用し得る能力によつて區別されなければならぬ。かくしてまだ實驗の時代にある子供達が極めて自由に材料の實驗をしてゐる一方では、進んだ表現の形式を欲したり或は同一の事を繰り返さうとする傾向のある子供達も訓練の利益を受けて行く事が出来る。

物を一層明瞭に見る爲に又考を明確に表す爲に。

多くの幼稚園時代の子供達はまだ實物寫生をする程發達してゐないから最初は先づ物を想像的に表現する段階から出發しなければならぬ。しかし幼稚園幼児にも可成進んだ程度で事物を精密に細部を把へて畫き得るものもある、彼等は國旗をよく視てその正確な色、地色と旗竿の正しい關係、地と縞との正しい關係を畫き表す事が出来る。この様な發達の程度にある子供は多少割合の觀念を以て時計を畫く。そして小さい子供達がする様に單に印をつける代りに時計の盤面の周圍を多少具體的に象つて其の早熟能力を示す。かういふ風な畫き方は畫き方の能力と何か關係があるらしい。それは又用器畫と靜物畫のはじめである。然しこれを以て想像畫の代りとしては決してならない。幼稚園要目の中には汽車や家を畫

くような、斯る表現の形式を助成する題目があるから。春には、猫柳の枝や野の花や子供達の植えた、ヒヤシンスを、形や色を正す事を考慮して、描かせた事が出来る。しかし子供達が畫くのに小枝を無差別に見、地面から花を生やし、花や莖をかくのに赤と緑を無差別に使ふ時には彼等はまだ物を寫生する期ではない。一群の子供に教師がピタスケットの小枝をよく見せて畫く様に與へた時、彼等は單に實を畫くものと思つて點や線の種々な配列を作り上げ、それは非常に裝飾的しかし單に實を表して居る丈で實際のものど少しも似てゐなかつた。

意識的に色や配列を用ふ爲に。

前章に提出した様に仕事をもちと考へてする様に動機を與へる事、たとへば小さい子供達は、選擇とか配列とかを少しも考へないので、一頁の上へあらゆる物を撒き散らす。一頁毎に畫をかけた本を作る事は考と配列を秩序正しくする。要目の主題に依つて考が一層明瞭にされた時には、子供の作品も斯る性質を反映し、教師が力を入れる點が一つの繪畫に含まれてゐる事物の相互關係に表はれて来る。

題材が圖解といふよりは裝飾的である場合には、

裝飾される物が其れに妥當な色彩と意匠を規定する。たとへばハローウキンの祭にはオレンジ色やこげ茶色、クリスマス期には緑と赤が、お皿とかバスケットとか其他祭禮に關係する物に適用される。人形の家は壁紙や敷物に適應する色や模様の調和の關係に大とうよい題材を提出する。

效果

1、態度、興味、嗜好

圖畫藝術の媒を通して、觀念と情緒とを表さうとする熱心と悦び。繪畫に對する一層智的な興味。色、形、配列に對する感じ。

2、習慣、技巧

材料使用に於ての順序正しき習慣。或程度の技巧で藝術の材料を使ひ得る能力。

3、智識、

他人へ思想を發表する形式の觀念
藝術の材料に依て考を表現する爲に生ずる要目の主題についての更に明確なる觀念。

○
豊國幼稚園の馬場先生からは毎號貴い資料をお送りいただきほんとうに讀者のたれかれが續きをまちかれるようにして居ります事をき、ました。心から御禮申し上げます。

編輯室の都合で本月は臨時に發行日を變更しなければならなくなりました事を皆様の前に許して頂きたい。更によい六月をお送り出来るようにと祈りながら、(R子)

○ 各地方の保育界に關する御報導を願ひます。殊に此の春季には、多くの保育會が開かるゝことと思ひます。その御様子は是非ともお知らせを願つて、誌上に載せたいと思ひます。

○ 皆さんの幼稚園、保育所等の御近状も、どうぞお知せ下さい。いろ／＼の苦心も、希望も、また失敗もお互に話しあつたら面白くもあり、有益でもありませう。

○ 幼児の教育に關する質問欄ごでもいふべきものを設けませう。御質疑をお申越し下されば、誌上でお答へします。但し、あんまり六かしいことは閉口ですよと、倉橋主幹が言つて居られました。(御質問は必ず封書とし、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛にて、封筒に「質疑」と朱書して置いて下さい)。

會 告

- 會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と同じにして頂きたう存じます。例へば初め幼稚園にて御入會になり、後個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様に願上ます。整理上甚だ煩雜致しすから。
- 會費未納は會計整理の上に甚だ困難致しすから確實に御納付下さいまし。向後萬一御不納久しきに亙ります場合は乍遺憾雜誌發送を停止致します。
- 會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願ひます。
- 萬一本誌不着等のことがございましたら直に御一報煩したう存じます。

本誌定價

一冊(郵税共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正十二年五月十九日印刷
大正十二年五月二十二日發行

編輯者 柴山則常
發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山則常
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
合資 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

◆書要必き可ふ備に園稚幼◆

東京帝國大學 文學士 上村福幸先生著

紙數八五〇頁 插畫凸版數十個入 背皮索引附函入美本

(版再ち忽)

知能測定法

組トノイボ部全 錢拾參圓五金價正 錢七拾貳料送留書

兒童教育の要は兒童各自の知能に應じ、且つ其の知能を最も有効に増進するに在り而して此知能の測定は頗る困難なり。此精密微細の注意を有するものなれば、一度此測定法を誤らば教育の效果は、擧がらざるは勿論、兒童をして不幸の境遇に沈み、其の說明を豊富ならしめ、一般に揚げて、獨し今最近の研究を一括して、大なる一得らるべし。

東京帝國大學 文學士 上村福幸先生著

竹内小兒科 病院長醫學士 竹内薰兵先生著

紙數約四〇〇頁 插畫凸版數十個入 琥珀上製美本 函入

(版再ち忽)

實愛兒の育て方と 驗病氣の手當

全 部 振 假 名 付 錢拾參圓貳金價正 錢貳拾料送

日本は世界各國中小兒の死亡率が一番多いと云ふて居りますが、我國あると著者は申して居ります。竹内先生は十數年の婦人は小児の病氣及治療に對する手當等の知識があまりになさすぎ、年間の實驗から得て本書を現はされたのです。まず、子供に死亡は大部分母親や諸姉が斯道の知識に乏しいからで、眞に子供を愛する御婦人方に御薦め致します。

◆良友主筆濱田廣介著 童話椋鳥の夢(文部省圖) 上篇より成る挿畫八葉入 函入ポイント組、琥珀全裝、錢拾貳

◆法學士石井滿著 愛と女性を中心として 頗る美本 正價壹圓九拾錢 送料拾貳錢

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)

幼 兒 教 育 第 二 十 三 卷 第 五 號 大 正 十 二 年 五 月 十 九 日 印 刷 大 正 十 二 年 五 月 二 十 二 日 發 行

印刷所 合資會社 杏 林 舍

東京市神田區 永富町八番地 教育研究會 振替 八五一八〇番 座